

学校法人佐久学園



佐久の薰風

No.11

2019(令和元)年11月30日発行

発行人 学校法人佐久学園

編集人 学園通信編集委員会

<http://www.saku.ac.jp/>



CONTENTS

佐久大学 その先へ ～ヒューマンケア科学部整備室便り～… 2・3
聖路加国際大学との交流事業・第8回信州介護学研究会… 4
講座・研修等のお知らせ… 4
国際交流・教育センター
領域紹介〈母性看護学〉・教員の活躍・足の保健室… 5
キャンパストピックス・新任教員紹介… 6・7
大学祭・Voice of Graduates …8

ヒューマンケア科学部 設置整備室便り

本学は、“人びとが人間らしく生きることを支える”という考えに基づくヒューマンケア科学部(仮称)の2021年4月開設に向けて、新学部設置整備室が中心となり構想をすすめています。最新の情報をお知らせします。

●教育の特色

新学部では、ヘルスケアとソーシャルケア(福祉的ケア)を包含した概念である「ヒューマンケア科学」に基づいて、広義の社会福祉をベースに新しいケア専門職業養成を目指します。そのカリキュラムは、「社会人としての教養、人間の基礎力」を培う基盤教育に重点をおき、生命倫理や法学、社会学などの基礎科目から、ヒューマンケア科学の思想、体系、対象、領域、技術、体験からなる専門科目へと展開します。3年次には、4つの教育群(下図)より主・副専攻を選択し、多様化する社会の様々なケア課題を学びます。4年次のまとめは、卒業研究などで総合的に学修を振り返り、自己課題を明確にすることでヒューマンケア科学を探究する力を育みます。卒業時には、どの専攻からでも社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格が得られるようにカリキュラムが構成されています。

ほかに、認知症ケア准専門士・医師事務作業補助者などの認定資格も取得できるようにサポートします。将来、病院や福祉施設で活躍する社会福祉専門職をはじめ、自治体や医療福祉施設の経営・管理、そして医療・福祉に関連したもののづくり産業やサービス業など、行政・民間いずれの分野でも活躍できるように、行政、法律、マーケティング、経済、環境論といった専門科目も配置し、多分野で活躍できる人材の育成を目指します。

近年、山積する複雑な社会課題の解決に向けて、保健、医療、福祉の総合的視点から対応できる複合的な応用力を育むために、新学部では、既存の看護学部、短期大学部と共に学び合い、互いの専門性について理解し合う場も大切にしたカリキュラムづくりを進めています。

●校舎等、施設設備計画

ヒューマンケア科学部の開設に向けて、大・中講義室、ゼミ室、図書館(メディアセンター)、カフェ等を備えた2階建、約2600㎡の新校舎建設を計画しています。既存の図書館は、新校舎へ移転させ、新たにメディアセンターとして生まれ変わる予定です。5号館南側の敷地に面して、雄大な景観も確保されることでしょうか。この新校舎の構想に向けて、整備室では、他大学の校舎を視察しました。講義室や共用スペース、図書館、キャリアサポートセンターといった運用面でも参考になるものが数多くありました。

佐久という地域医療先進地域にふさわしい大学づくりを目指して、これからも新学部の開設に向けた準備をすすめます。

福祉臨床教育群

障害や疾病、貧困などにより、生活に支援を必要とする子どもや成人を対象としたケアを学ぶ。

福祉施設や地域の機関で働く

- 福祉施設の生活相談員、生活支援員
- スクールソーシャルワーカー
- 障害者の就労支援員、生活支援員 他



医療福祉教育群

認知症や慢性疾患、精神疾患など、専門的医療とケアを必要とする人への支援とその技術について学ぶ。

医療機関などで働く

- 病院・診療所の医療ソーシャルワーカー
- 病院・診療所の精神科ソーシャルワーカー 他



生活環境教育群

人と人のつながりを大切にしたい誰もが暮らしやすい地域社会と住環境づくり、社会資源の活用について学ぶ。

福祉・住環境のものづくり企業などで働く

- 医療または医療に関わる産業のクリエイター
- 福祉住環境コーディネーター
- 福祉関連企業の開発・企画担当者 他



マネジメント教育群

経済や法律の知識を修得し、保健・医療・福祉に関連する機関や施設等の経営・管理、運営について学ぶ。

行政機関や民間企業で働く

- 公務員(行政職)
- 医師事務作業補助者
- 医療機関や福祉施設などの経営・管理職
- 福祉関連企業などの総合職 他



選べる
4つの分野

※設置構想中につき、本紙に掲載されている内容に変更が生じる場合があります。

佐久大学、その先へ

～ ヒューマンケア科学部(仮称) 2021年4月開設予定(設置構想中) ～



新校舎のイメージ

【新学部概要】

- 学 部 名：ヒューマンケア科学部(仮称)
- 教育目標：生命・人間性と人権の尊重を基調として、豊かな人間性を育み、ヒューマンケアの実践力を備え、地域社会の一員としてケアリング・ソサエティ(社会福祉)の創造に貢献できる専門職を育成する。
- 入学定員：70名(3年次編入10名)
- 取得学位：学士(ヒューマンケア学)

【育成する人材像】

高度かつ複雑化するケアについて、保健・医療・福祉の観点から横断的に学び、高い専門性と応用力を身につけた人材を育成する。

- 高度なケア専門人材
- 医療に強いケア専門人材
- 認知症ケアの専門人材
- ケアを創造・発展できる専門人材
- 経営・マネジメント領域で活躍できる人材

【スケジュール(予定)】

2020年3月	設置認可申請
2020年8月	設置認可
2020年9月	学生募集・入試開始
2021年4月	新学部開設

● 高校生アンケートの実施

整備室では、将来の学生確保に向けて、長野県内の全高等学校を対象に過去3年間における社会福祉系学部・学科への進学者数を調査しました(2018年12月実施)。

2019年10月から測量や地質調査をはじめ、いよいよ新校舎の建設に向けて動き出しました。5号館の南側に建設予定で、来年度中に完成します。

名を超える人数が社会福祉系の学部・学科に進学しており、そのうち、2016年は217名、2018年には220名が県外に進学していることがわかりました。

現在、県内で社会福祉系の学部を持つのは、長野大学のみであり、県内への進学者数は年々減少しています(図①)。県では、その対策として、2018年1月に「日本福祉大学(愛知県)とUターン就職促進協定」を締結し、卒業後の人材還流促進と県内へ就職する社会福祉系人材の確保のため対策に乗り出しています。

こうした現状のなかで、本学

のヒューマンケア科学部(仮称)は、東信地区を中心とした県内高校生の進学先のひとつとなり、長野県の社会福祉系人材の確保にも大きく寄与することができると考えています。

2019年9月の最新の調査では、長野県内の高校2年生5043名中、本学新学部への「進学を希望する」82名、「進学を検討する」254名という結果でした。一方で、「わからない」と回答した学生が1339名もいるため、ヒューマンケアとは何か、社会福祉系学部で何が学べるかについて、さらに情報発信を強化し、着実に学生確保を図っていく予定です。

佐久大学ヒューマンケア科学部開設に向けた連続シンポジウム

2019年
11月30日(土)
13:00～

第1回
テーマ

医療・看護・介護の現状と課題

基調報告：若林 甫 汎 (学校法人佐久学園理事)

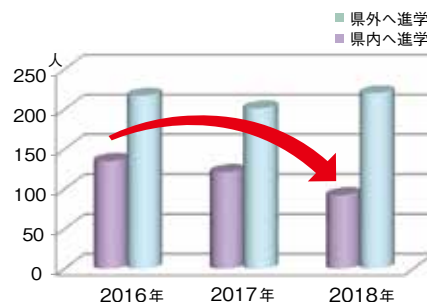
シンポジスト 佐久医療センター院長、浅間総合病院院長、ジェイエー長野会教育顧問、佐久大学学長

2020年
5月予定

第2回
テーマ

地域環境・自治活動上のヒューマンケア活動

※近隣の市町村長を招き、基調講演・パネルディスカッションを予定しています



図① 長野県内高校における社会福祉系の学部・学科への進学者数

2019年5月に佐久学園と聖路加国際大学は「大学間交流に関する包括連携協定」を締結しました。東京と佐久の異なる地域で学ぶ学生が、異なる文化における保健医療システムの理解を深め、多様な地域の課題解決にむけて活躍できる専門職に育つことを目指しています。その一環として、9月17日、聖路加国際大学4年次生4名と、本学



聖路加国際大学と 交流事業を実施

4年次生8名が野辺山の信州大学附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターで合同ゼミに参加しました。聖路加国際大学の学生は、川上村の農業体験後に実施した総合実習（健康教育）について、本学の学生は保健師の市町村実習で実施した「子どものスマホの使い方」および「血糖値と食生活習慣」の健康教育を報告し、双方の意見や質問で盛り上がりました。本学の学生からは、「自分自身が持っている考え方や感じ方などをさらに広げられる機会となった」等の感想が聞かれ、有意義な交流となりました。



第8回 信州介護学研究会



10月5日、信州短期大学部と社会福祉法人ジェイエー長野会の共催による「第8回信州介護学研究会」が、実務者、学生・生徒、一般市民ら約2000人の参加を得て開催されました。今年のテーマは「介護のあすに向かって」ここまで進んだ介護」と題し、介護環境の改善や介護の質の向上を目指して様々な催しが実施されました。今回最も好評を博したのは、「アクティビティケア・アイデアコ



ンテスト」です。福祉施設などで取り入れてほしいアイデアが、地域の高校生、本学学生そして台湾からの介護研修団の7団体によって実演されました。その後、来場者の投票によって最も優れているアイデアが表彰されました。また、「認知症ケアの昔と今」と題した堀内ふき学長の基調講演に続いて、県内4つの施設から「ここまで進んだ介護」のテーマに沿った実践の発表があり、佐久地域をはじめとする多くの施設からはポスター展示による特色ある活動の報告がされました。

2019年度 講座・研修等のお知らせ

■ 臨地実習指導者研修セミナー (NPIS)

研修② 指導者カンファレンス

日時：12月14日(土) 10:00～12:30

■ 2019佐久大学公開講座

「足の健康づくり」

- ・ボクとワタシの靴教室『うまく履けたよ』
- ・いつまでも元気に歩くために

日時：12月14日(土) 14:00～15:30

◆◇2019年度 オープンキャンパス・進学相談会◆◇

● 佐久大学・佐久大学信州短期大学部 進学相談会

12月14日(土)・2020年1月25日(土)・2月15日(土)

● 佐久大学・佐久大学信州短期大学部 オープンキャンパス

2020年3月7日(土)

詳細は本学ホームページでご確認ください。

佐久大学ホームページ <http://www.saku.ac.jp>

シリーズ領域紹介⑦

母性
看護学

妊娠・出産・育児を中心に学びを深め、産科病棟や地域の母子保健活動の場へ実習に行きます。少子化により母性看護学が対象とする人々に関わったことがない学生が多いため、実習前に妊娠・出産経験のある方へのインタビューやシミュレーション演習を通じて、対象のイメージ化を図る工夫などを行っています。

こうした学びや実習の体験を通じて、自分が生まれてからこれまで周囲の方々からとても大切にされてきたことを実感する学生も多くいます。さらに学生が自分自身の近い将来のこととして学ぶことができる領域でもあります。

母性看護学は、WHO（世界保健機関）が提唱するリプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の考え方を基に、女性（時には男性）、子ども、家族を対象として、思春期から中・更年期まで生涯を通じた性と生殖に関する心身の健康を、どのように守り、増進していくのかについて学びます。母性看護学では、対象の方々の強みを活かし、よりよい健康へとステップアップするように、また自分自身の健康や家族の健康を守るように、直接的なケアや健康教育などの看護支援の方法を学びます。3年次には、特に女性の貴重なライフイベントである



シミュレーション実習

SERIES⑥
教員の
活躍

佐久大学信州短期大学部 講師

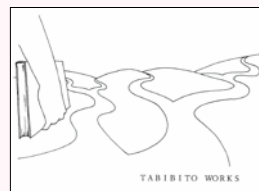
倉田 郁也

佐久大学に来る前、私は、児童相談所で虐待対応相談員として7年間働いていました。児相では、一時保護された子どもや、不登校の子どもたちと関わってきました。ケースが長期化すれば、子どもたちと関わる時間もおのずと長くなり、子どもを飽きさせずに、また、自分も飽きずに、信頼に基づく関係を続けていくには、工夫が必要となります。

ところが、子どもと一緒に時間を過ごす「仕掛け」は、それほど多くはありません。トランプ、将棋、五目並べ、人生ゲーム、ジエンガ、キャッチボール、散歩などをローテーションで繰り返すこともしばしばです。子どもと関われる「遊びのネタ」は、多ければ多いほどいいのが実情でした。

そこで、私は、子どもと関われる「仕掛け」、カウンセリング・ワークブックを開発しました。大人も楽しめる、このワークブック「旅人ワーク」を、現在、カウンセリングの場で使用しています。

興味のある方は、ご一報ください。



倉田先生が開発した「旅人ワーク」



佐久大学 足の保健室

今年4月に開設しました。開設のきっかけは、足育サポートセンターの相談者や、大学・地域のイベント参加者の足を観察する機会を持つ中で、多くの方が【巻爪】【跖胝(たこ)】【鶏眼(魚の目)】【外反母趾】などの痛みを抱えているにも関わらず、「相談する場所が無くて困っている」という声を聞いたことです。

足の問題は、靴や歩き方とも連動しており複雑ですが、少しでもお役に立ちたいと考え、『足の保健室』を実現させました。

現在は予約制で、週1回3時間程度、無料で行っています。これまでに20名の方の利用があり、延べ59回実施しました。中にはトラブルが改善した方もいらっしゃいます。

足トラブルでお悩みの方は、お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

佐久大学

足の保健室 ご案内

足指の爪切り/巻爪(まきづめ)・/跖胝(たこ)・鶏眼(うおめ)
外反母趾・扁平足などでお悩みの方...
私たちに一声かけてください!

▼場所: 佐久大学内
足育サポートセンター(1号館1F東)

▼開館日時: 毎週金曜日 15:30~

(上記以外にも、できる限りご都合に合わせて。遠慮なく声をかけてください。)

▼持ち物: タオル2本

▼申込み方法: 予約制です。

TEL: 0267-68-6680 保健室 花里まで

8/28 NHK イブニング信州に出演

「佐久大学～現場で活躍するための実技授業～」として、大学院生・学部生の演習の様子が放映されました。



9/1 小海高校文化祭へ出展

「ハケ嶺祭」で、足裏測定とフットダーツのブースを出展しました。



9/5 ナーシングセレモニー

実習関係者や教職員、家族の見守るなか、看護学部3年次生による「ナーシングセレモニー」が厳かに行われました。半年間にわたる臨床実習を前に、決意を新たに誓いの言葉を述べました。



9/2~11/22 日本台湾交流協会 第2回高齢者ケア研修

昨年度に引き続き、台湾の介護従事者および行政関係者12名を受け入れ「第2回高齢者ケア研修」を2か月間実施しました。

9/7 佐久大学公開講座

すみだクリニック理学療法士市川彰氏による実践講座プログラム「姿勢や歩き方からわかるからだの不具合～予防と対処法～」が行われ、114名の方が参加しました。

6/6~22 台北医学大学附属病院研修

台湾の看護師、栄養士、検査技師、理学療法士の計14名が、佐久地域で老年看護・介護の研修を行いました。

6/17 オリンピック強化指定選手に選出

スケート部の山浦美和子さん（短期大学部2年）が、2019年度オリンピック強化指定選手に選ばれました。

6/21 学生広報チーム【SPICE】

看護学部学生広報チーム【SPICE】が発足しました。学生目線で佐久大学の魅力や授業風景をホームページ等で発信しています。



6/24 PCANコース実習開始

プライマリーケア看護コースの大学院生が本格的な病院での実習を開始しました。

7/11 タイ・台湾・日本の学生の交流会を開催

学術協定校であるタイ国立ブラバ大学、台湾国立臺北護理健康大學の学生と国際交流会を行いました。

7/13 SDGsに取り組んだ授業を公開

看護学部1年次科目「導入基礎演習」で、SDGsの課題解決に向けたプロジェクト学修の成果を発表しました。会場では来場した高校生からの質問が出るなど、活発な意見交換の場となりました。



7/30 看護学研究奨励賞を受賞

朴相俊准教授の研究論文が、日本私立看護系大学協会の「看護学研究奨励賞」を受賞しました。

8/7~9 臨地実習指導者研修セミナー

現場で働く看護師の方を対象に、指導方法・スタッフ支援のあり方や、自身のキャリアについて考えるセミナーを開催しました。

5/3~4 佐久 バルーンフェスティバル

来場者にフットダーツを楽しんでいただきながら、本学の「足育」活動について紹介しました。フットダーツの参加者は約1500人と大盛況でした。



5/11 開学祭「足から始める健康づくり」

「足のトラブルとセルフケア」と題して、高山かおる先生による講演会を開催しました。また、足育研究プロジェクトについて、本学教員による研究や活動に関する中間報告会を行いました。



5/18 病院祭に参加

JA長野厚生連佐久総合病院にて病院祭が行われ、多くの学生がボランティアとして参加しました。



6/29 佐久長聖高校文化祭へ出展

「聖祭」で、足裏測定と聴診器体験や性格診断を行うブースを出展しました。



5/21 聖路加国際大学と包括連携協定を締結

大学間交流に関する包括連携協定を締結し、次世代社会における看護人材のロールモデル育成に協働していきます。

10/20 第12回 秋桜祭 第32回 信陽祭

台風19号の影響を受け、「被災地の復興支援を目的として」規模を縮小して1日のみ開催しました。(P.8)



10/24 地域の中学校との交流

「健康で丈夫な体づくり」 浅間中学1年生262名と短期大学部2年次生が手洗い・車いす体験を通して交流をしました。



10/24 佐久市へ災害義援金を寄付

大学祭での募金活動やチャリティーバザー・模擬店の収益から集まった195,126円を、佐久市に寄付しました。(P.8)



10/4~19 第2回 エジプト看護管理研修

エジプト・日本教育パートナーシップに基づく看護管理研修の2回目を実施しました。研修中に大型台風が直撃し、一部の実習が中止となりましたが、佐久市のボランティア活動に参加し、災害時の対応について学びを深めました。

10/5 第8回信州介護学研究会

「介護のあすに向かって：ここまで進んだ介護」と題し、介護環境の改善や介護の質の向上を目指した催しを行いました。アクティビティケア・アイデアコンテストには、短期大学部の学生も参加しました。(P.4)



10/12~13 スケート部全日本 距離別選手権上位進出

スケート部の山浦美和子さんが、全日本距離別選手権において上位進出を果たし、今シーズン前半のワールドカップ第1戦～4戦に初選考されました。



10/14 台風19号 災害ボランティアに参加

台風19号による被害を受けた佐久市等の自治体に、本学から延べ50名近くの学生が災害ボランティアとして参加しました。

9/12 高校生の大学見学

上田高校の生徒が、スーパーグローバルハイスクール(SGH)県内フィールドワークの一環として本学を訪れました。



9/17 聖路加国際大学との 交流事業

「野辺山ステーション」にて、交流会を開催し、聖路加国際大学4年生と本学4年次生が合同ゼミナールを行いました。(P.4)



9/26 国際福祉機器展の視察

東京ビックサイトで行われた「第46回国際福祉機器展」に短期大学部1年次生が参加しました。



9/28 佐久大学公開講座

身体医学研究所の半田秀一氏による講座「運動不足による肩こり(頭痛)や膝腰痛をやわらげる健康体操」が行われ、101名の方が参加者しました。

新任教員紹介



看護学部 助教
川口 桂嗣

担当領域

地域看護学(公衆衛生)

出身地

北海道旭川市

出身校

旭川医科大学大学院

医学系研究科看護学専攻

趣味

マラソン、登山

自己PR

「看護の面白さ」をみなさんと一緒に考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

ご寄附のお願い

学校法人佐久学園では、
広く寄附金を受け入れています。

佐久学園では、社会的意義のある持続可能な高等教育機関として、さらなる教育研究活動の環境整備と学生の修学支援体制の充実に努めてまいります。皆様方からの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

本学へのご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては、佐久大学ホームページに掲載しております。または、事務局総務課(TEL0267-68-6680)までお問合せください。



第12回 秋桜祭 第32回 信陽祭



START ~もう一度、ここからはじめよう~

今年の大学祭のテーマには、平成から令和に時代が移り変わり新しくスタートしたように、もう一度新しい気持ちで大学祭を作り上げていこうという思いを込めました。

当初、大学祭は2日間の開催予定でしたが、台風19号により佐久市をはじめとする長野県の多くの地区が被災したことを受け、規模を縮小し被災地の復興支援を目的に20日(日)のみに開催することとしました。

予定していた前夜祭や打ち上げ花火を中止する等、プログラムの大きな変更もあり、準備や運営には大変なことが沢山ありましたが、スタッフ同士が連携し、学生が一

致団結することができ、令和最初の大学祭は私たちの心に残るものとなりました。この経験は将来に繋がっていくものと思います。

台風の被害が大きかったにもかかわらず、たくさんの方々にお越しいただき、大学祭が無事に開催できたことは、ご協力いただきました地域の方々、関係者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

佐久大学2年 秋桜祭実行委員長 北原 琉次
佐久大学信州短期大学部2年 信陽祭実行委員長 高野 友裕

災害義援金 佐久市へ寄付

台風19号が佐久市をはじめとする多くの地域に大きな被害をもたらしたことを受け、「被災地の復興支援」を目的として開催した大学祭で、募金活動やチャリティーバザーを実施しました。大学祭当日は大勢の皆様にご来場いただき、多くの方のご協力を得ることができました。また、模擬店で得た収益の一部も合わせて義援金とし、10月24日に、佐久市へ195,126円を寄付しました。

大学祭実行委員会



台風19号災害義援金 明細

● 募金(来場者・学生・教職員)	61,045円
● チャリティーバザー売上	46,950円
● 模擬店売上	87,131円
合 計	195,126円

Voice of Graduates 卒業生の声 No.9



山梨大学医学部附属病院 勤務

新海 智美さん

佐久大学看護学部 2015年度卒業

Q1 卒業してから現在までの状況

A1 出身が山梨のため、地元医療機関に就職したいと望んでいた。新人教育制度が充実しており、最先端の医療を学べる場所であったため、現在の病院に就職した。

Q2 現在の仕事内容

A2 脳外科、神経内科、救急部の混合病棟に勤務。本年度で4年目になり、プリセプターやリーダー業務も担当している。

Q3 仕事で大変なこと

A3 重症患者が多いセクションのため、勤務時間中は常に患者さんの容態を把握しておかなければならず、精神的にも負担が大きい。

Q4 仕事でうれしいこと

A4 担当する病棟の患者さんの容態が回復し、退院を見送れること。患者さんやその家族の方々とのコミュニケーションを大切にすることにより、信頼関係を築くことができること。

Q5 大学で学んで役に立っていること

A5 グループワークを行うことで、自分で考えてアセスメントするスキルを習得できたこと。

Q6 大学時代の思い出

A6 大学祭の運営に関わったことや、卒業対策委員としての役割を果たすことで、集団をまとめる難しさと、達成感を体験できた。またタイへの研修に参加し、アジアでの看護や医療を学ぶことができた。

Q7 学生にアドバイス

A7 課題や実習、記録が多く大変だとは思いますが、社会に出て必ず役に立つ日が来るので、夢に向かって頑張ってください。

Q8 今後の目標

A8 脳外科や神経内科だけではなく、ICU、循環器、手術室などのセクションでのスキルを習得し、ジェネラリストになりたい。



『異常気象』という言葉をよく聞くようになりました。先の台風15号、そしてこの近隣にも被害を及ぼした19号…これも異常気象のせいなのでしょうが？

台風19号が去った翌日、休校となった大学に学生たちが、スコップを持って集まってきました。「これからボランティアに行きます」とのこと。すばやく行動を起こした学生たちに感動し目頭が熱くなりました。

これからやって来る厳しい冬に向けて、被害に遭われた方々の一日も早い復興を願いながら、私たちにできることを考えていきたいと思っています。

(花里)



国際交流・教育センターの概要

国際交流・教育センターは、国際交流や国際教育に関する事業および活動を通じて、本学園の国際化をよりいっそう推進することを目的に 2017 年に発足いたしました。

当センターでは、本学園の学生が国際的な視野を持つために、学習の機会を設けています。また、日本の看護・介護を学びたいという留学生の受け入れ、および海外からの視察や研修の受け入れを、地域の方々の協力を得ながら積極的に行っています。その結果海外からの研修生と学生が交流する機会は年々増えています。

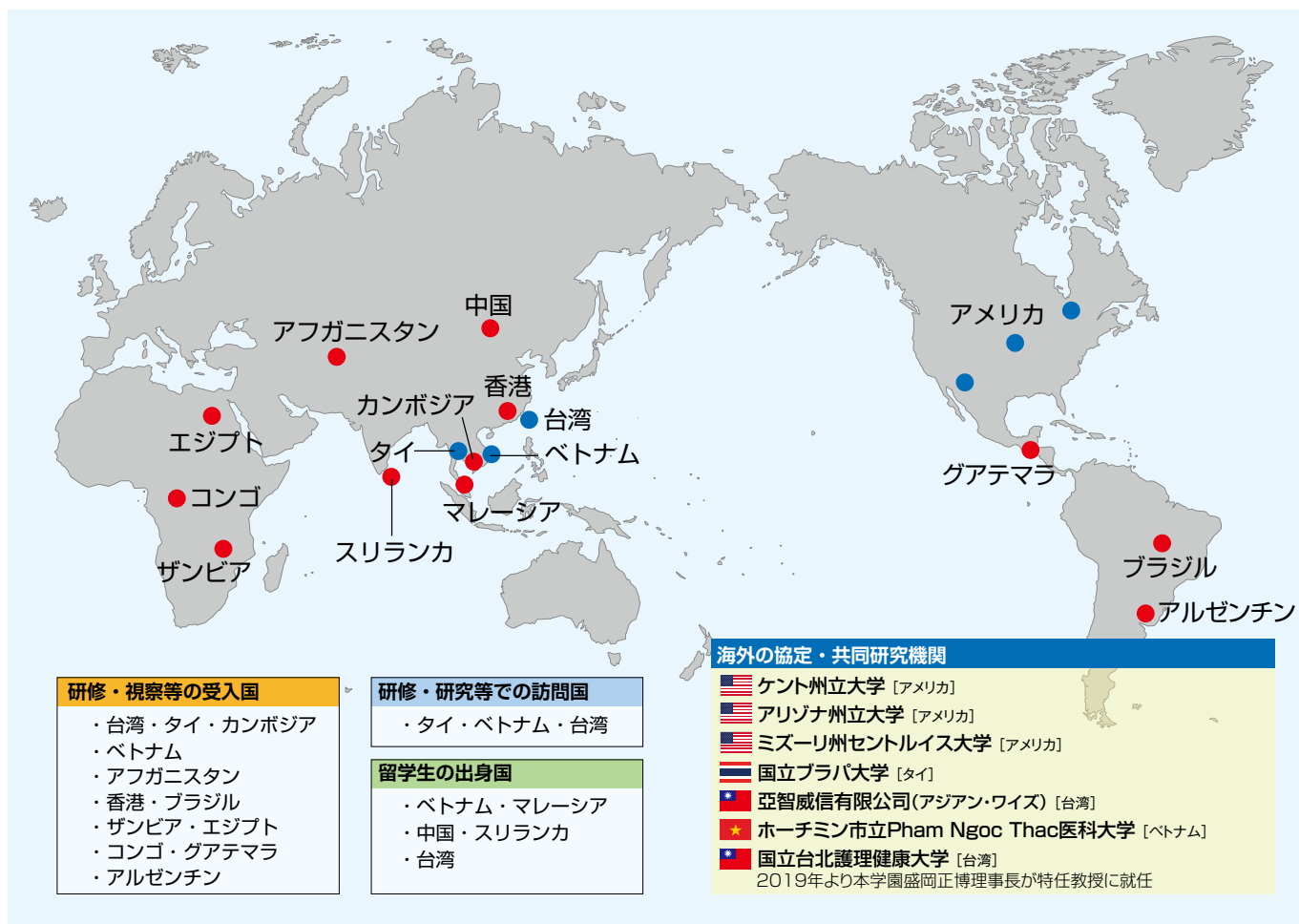


当センターの主な活動

- ・ 国際交流に関する事業および活動
- ・ 海外の機関との教育・研究活動
- ・ 学生の海外留学・実習・研修
- ・ 留学生の受け入れ、教育および生活支援 など

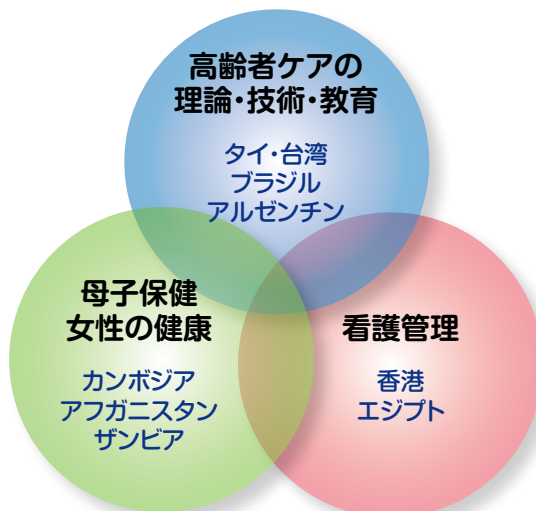
世界とつながる佐久学園

佐久学園は、アジア諸国を中心に看護師や医療福祉関係者の研修を受け入れ、学生がタイや台湾の医療福祉を学ぶ機会を提供したり、教員の国際的な学術研究を行うために、海外の機関と協力関係を結び連携してきました。



海外研修生の主な研修領域

世界各国から多くの研修生を受け入れており、(独)国際協力機構(JICA)のプロジェクト「母子保健・看護管理、地域高齢者ケア、地域保健分野の人材育成」や、日本政府とエジプト政府の間で結ばれた「エジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)」の人材育成プロジェクトなどにも参画しています。文化や習慣が異なる国々との研修を通じた交流は、日本のケア理念と技術を伝えるのみでなく、再考する機会となっています。



学生の海外研修

【国際看護論】

国際的な視点から看護を取り巻く社会・教育・保健事情・文化について学ぶことを目的とする看護学部4年次の開講科目です。毎年8月に10日間の演習をタイのチョンブリ県にある国立ブラバ大学で実施しています。タイの特徴的な地域医療施設や高齢者施設などを訪問する他、ブラバ大学看護学部生との交流時間が多いプログラムとなっています。



【保健医療福祉スタディツアー】

教員引率による海外の医療・介護現場を見学する海外研修です。台湾の病院やデイケアセンターの見学、国立台北護理健康大学の学生との交流や異文化学習を行います。多くの学生は初めて外国に行き、そこで日本の学修の大切さに気づきます。異文化交流の一環として、佐久大学の全学生対象に毎年開催しています。

佐久地域における連携事業

ーアジア健康構想の実現に向けて佐久市と協力的ー

佐久地域で培われた地域医療、農村医療は、現在の「地域包括ケア」の原点といえます。住民主体を基本理念として体系づけられた在宅ケア（高齢者ケア）を、海外へ発信する時期と捉え、本学園は、2016年に佐久市の保健・医療のつばさ事業に参画し、行政・医療機関・介護施設・産業とともに「オール佐久」として、共同で事業を海外に進めています。さらに、2019年度より【福祉・介護のつばさ事業】への展開に協力しています。

佐久市【福祉・介護のつばさ事業】とは

アジア諸国で介護サービス提供を支える人材を佐久地域で育成することにより、不足する福祉・介護産業の担い手の創出を図り、民間事業者の海外展開により帰国後の職場を創出する循環型の仕組みと体制の整備を進め、地域中核産業の持続的な発展を目指す事業です。(佐久市役所 高齢者福祉課 介護保険事業係)